

## 実習報告（関係機関実習）

## 地域内連携による学校組織の活性化を通じた学校改善について

古川 英治（教育経営探究コース：現職教員）

## 【探究実習のテーマと設定の理由】

少子化に伴う大幅な生徒減少や社会の変化、生徒・保護者のニーズの多様化等に対応し、高校生にとって望ましい教育環境の整備・確保に努める必要があるとして、平成26年度に佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）が策定された。このように、学級減、学校統廃合など公立高校を取り巻く環境は一層厳しさを増している。このような状況により、今後は1学年3クラス以下の小規模校として学校経営の方向を模索する必要性が高まっている現状がある。そこで、小規模校としての特色づくりを通じて、学校活性化に努めるため、大学院における2年間の研究テーマを『小規模校における学校改善～目指す生徒像を基にした学校活性化を目指して～』とした。そこで、校内に学校活性化委員会を設置し、目指す生徒像を基盤とした学校づくりについて議論を深め、学校改善について研究する。また、学校の地域における存在意義を再確認し高めることや、学校および教育機関との双方向の関係を構築した上での連携を図る研究を進め、学校組織の活性化・学校改善へとつなげていきたい。さらに、各種連携における教育委員会の役割について学んだ上で、連携の在り方に関する議論を深める必要があると考える。したがって、探究実習では「地域の中での存在意義を探ること」、「教育機関との連携組織作りのための実態把握」、「地域内学校連携を協議、検討するための知識を得ること」を目的とした。この地域内連携に関する取組をミドルリーダー主導によって実施することにより、学校組織の活性化・学校改善を目指すため、探究実習の研究テーマを『学校組織の活性化を通じた学校改善に関する研究～ミドルリーダー主導の地域内連携を通して～』とした。

## 【探究実習の研究目標】

実習では、東部教育事務所、佐賀県教育庁学校教育課において「地域の中での存在意義を探ること」、「教育機関との連携組織作りのための実態把握」、「地域内学校連携を協議、検討するための知識を得ること」を目標とした。各実習先における詳細な目標は以下のとおりである。

## (1) 東部教育事務所

小学校、中学校における学校・学級経営、授業研究、校内研修、家庭や地域との連携、教員文化などの基礎知識を得ることを目標とした。その上で、研究に関連する事項として、各種連携に関する校内体制、連携の実践事例や先進的事例における成果と課題、各学校の特徴的な取組とその成果と課題、さらに、教育事務所の運営、関係機関との連携、学校支援の実際について知ること目標とした。

## (2) 佐賀県教育庁学校教育課

各学校への指導助言、運営管理の実情および関係機関との連携の在り方をはじめ、教育課程、学校指導、生徒指導、職業指導等に関する基礎知識を身につけることを目標とした。中でも、高等学校における学校経営、学級経営、授業研究をはじめとする校内研究、各種連携、教員文化など、各学校が抱える課題とそれに対する取組について知るだけでなく、研究に関連する事項として、小規模校における学校改善に資する特徴的な取組や先進的な実践事例、高大連携、地域連携に関する実践事例と成果と課題についても深く学ぶことを目標とした。

## 【探究実習の概要】

実習の概要は【表 1】の通りである。  
1ヶ月の実習期間において、講義、会議・説明会補助、学校訪問・視察、学校支援、事業内容の確認、研修会参加などの諸活動を通して、実習目標である学校の運営管理に関する基礎的知識、連携に関する取組およびその成果と課題、学校支援の実際を体験した。

## 【探究実習の成果と課題】

探究実習の研究目標に沿って、来年度の学校変革試行実習につながる成果と課題を述べていく。

### (1) 地域の中での存在意義を探ること

学校訪問、朝の挨拶運動へ参加することで、各中学校の現状を知り、入試説明会では、各高校の果たすべき役割を認識することの重要性、中でも生徒や保護者の高校教育に対するニーズの把握の必要性を強く感じる事ができた。学習する生徒のことを意識した学校づくりのためには、現状把握のためのアンケート実施、分析および科学的根拠に基づく取組が必要であると強く認識した。学校改善、学校活性化という目的に応じた量的調査と質的調査の両面からの実態把握、現状分析を行い、科学的根拠に基づく新たな取組、改善策の検討が今後の課題である。

### (2) 教育機関の連携に向けた組織作りのための実態把握

学校教育課において、組織の運営、各学校への支援・指導の在り方から、組織を作るために欠かせない規則や目標、目的の設定の重要性を深く学んだ。また、教育機関同士で連携し良好な関係を保ち、生徒にとって有効な手立てを準備し、必要な支援を行うためには、双方が相手機関の組織体制だけではなく、組織文化の違いを十分理解することが欠かせないことを痛感した。今回、地元の教育長と面会する機会が持て、今後の研究についての協力を得られることになったことは大きな成果であった。教育機関との連携・協働を深めていくためには、相手機関を知るだけではなく、生徒のための学校改善を意識した人間関係づくりを行うことも欠かせない。そこで、中高連携研究会の組織、運営を参考に地域内学校連携のための組織作り、運営方法、人間関係づくりを検討していくことが課題である。

### (3) 地域内学校連携に関する内容を協議、検討するための知識を得ること

東部教育事務所による学校訪問では、科学的根拠に基づいた生徒への学習支援を行い、学校改善に努めている中学校の事例を知ることができた。その学校は自校の取り組みを小中連携という形態で地域の4小学校へと広げ、地域連携を基盤とする学校改善も進めている。この中学校長より地域内連携に向けた組織作り、運営方法などについて助言をいただけることになったことは大きな成果であった。この訪問で、校長の校務マネジメント能力により、先生方の実践内容や各種事業の活用状況が大きく変わることを知り、管理職として求められる資質・能力について深く考える良い機会ともなった。その反面、連携に関する研究事例や実践事例が少ないこともあり、実習期間だけでは十分な知識を得ることができなかったため、今後も、学校連携の取組や小規模校における学校改善に関する実践事例を文献により研究し、興味深い事例については該当校へ出向き調査することが必要だと認識した。

上記の成果と課題を、現任校における「小規模校における学校改善」の研究に生かしていきたい。

【表 1】 探究実習内容

日程	実習内容（東部教育事務所）	日程	実習内容（佐賀県教育庁学校教育課）
9/ 1(木)	所長講話(実習を行うにあたって)	9/15(木)	ガイダンス(実習内容再確認)、県議会対応
	教育指導監講話(教育事務所の役割)	9/16(金)	主権者教育研修会に係る実践事例報告会
9/ 2(金)	ジョイント活動(みやき町立三根中学校)	9/20(火)	県内就職支援に係る会議
	学力向上班(学校支援と管内の学校の状況)		県立中学校入学者選抜担当者連絡会
9/ 5(月)	生徒指導班(学校支援と管内の学校の状況)	9/21(水)	学校教育課長講話(経営方針・懸案事項)
9/ 6(火)	ジョイント活動(みやき町立中原中学校)		教科指導力向上研修(鳥栖高校：世界史)
	学校経営担当(服務・メンタルヘルス)	9/23(金)	県立高等学校入学者選抜実施要項説明会資料準備
9/ 7(水)	学力向上推進教員配置事業同行		主権者教育公開授業(鹿島高校)
	神埼市教育長、神埼市学校教育課長面会	9/26(月)	県議会文教厚生常任委員会傍聴
9/ 8(木)	ジョイント活動(吉野ヶ里町立三田川中学校)		教科指導力向上研修(唐津東高校：数学)
	学力向上班(特別支援教育)	9/27(火)	講話(教育課程、各市町特色ある取組)
9/ 9(金)	ジョイント活動(神埼市立神埼中学校)		県立中学校入学者選抜実施要項説明会
	企画広報担当(ICT教育推進)	9/28(水)	講話(大学受験力、学力向上推進事業)
9/12(月)	学校訪問(佐賀市立川副中学校)直前打ち合わせ	9/29(木)	県立高等学校入学者選抜実施要項説明会事前準備
9/13(火)	学校訪問(佐賀市立川副中学校)に向けて事前学習		県立中学校入学者選抜実施要項説明会
9/14(水)	学校訪問(佐賀市立川副中学校)、反省会	9/30(金)	県立高等学校入学者選抜実施要項説明会